

令和7年5月29日

第3回 俳人協会神奈川県支部俳句大会

大高翔選

大高翔選__特選3句		
339	233	121
光にも風にもなれり夏燕	夏帽に軽く手を置く別れかな	いくだみや髪冷えて来しゆふまぐれ
ヤマハシユウト 山田 隼人	かほや 蒲谷 きよみ	ミヤザキ ミサコ 宮崎 美智子

大高翔選__入選7句						
388	381	372	316	129	73	57
老鶯のそろそろ声の終ひ時	冷酒や命日いつも晴れあたり	夏空や島へ延びたる砂洲を行く	緑さす遊女の碑への水一杓	薰風や腕立て伏の背に子ども	子の顔を忘れし母にカーネーション	夏蝶と同じベンチに風待てり
ツキノキワカナ 月野木 若菜	ウエノサイゴウ 上野 犀行	フジタ ケヨコ 藤田 千代子	スズキ 鈴木 はる美	イケダ エミコ 池田 恵美子	ヒゲ 肥後 ちさこ	タケタケシイチ 卓田 謙一

令和7年5月29日

第3回 俳人協会神奈川県支部俳句大会

岸本尚毅 選

岸本尚毅選 特選3句

239	221	113
高座 豚は綺麗好きキャベツ食ふ	風薫る校歌を歌ひ沢渡る	桑の実の甘し入江に魚跳び
サノ 佐野高	フジカワミエコ 藤川三枝子	ラミヤエイユ 二宮英子

岸本尚毅選 入選7句

273	259	250	154	137	103	76
一の鳥居石の罅より梅雨霽	あなうれし喜寿の草笛高らかに	鮎すしで俳人会の著名人	実朝の生まれたる地に更衣	パソみだばはエフロンばかり時計草	七きバンド仲間の妻と花見や卵焼く	昼夏のサレに幸せかと聞かれ
マサタニタミオ 正谷民夫	スギエミエ 杉江美枝	アベエミコ 阿部恵美子	スズノウミネ 涼野海音	マツヤマミチエ 松山三千江	カワベミツル 川邊満	ワタヅタカシ 渡部喬

令和7年5月29日

第3回 俳人協会神奈川県支部俳句大会

戸恒東人 選

戸恒東人選 特選3句

392	307	1
藤寝椅子父祖の写真に見下ろされ	七人の敵も老いたり心太	葉桜や洗ひて仕舞ふ硝子ペン
スギバヤシアキコ 杉林明子	せきやまけいろう 関山 鬼一	なかねおほ 中根美保

戸恒東人選 入選7句

390	341	178	132	36	34	13
手を振れば髪もさゆらぐ青葉風	大山のあたりもつとも濃き梅雨入	南風の真帆や野のつけ付漕の打瀬船	注文も受くるも手話やアイスティー	人籟を雨のなごりの端居より	イヤホンを外せば浮世蟬時雨	二人きりとなつてしまへり溝浚へ
ソキノヤシユンコ 月野木潤子	ニシカワチヨ 西川知世	ミツイトシタタ 三井利中	スドウマサヨシ 須藤昌義	ハヤカワコウジン 長谷川耿人	ソノネシンジロウ 曽根新五郎	ハウマサコ 原真砂子

令和7年5月29日

第3回 俳人協会神奈川県支部俳句大会

林 誠 司 選

林誠司選__特選3句

381	253	135
冷酒や命日いつと晴れぬたり	二番子の天井板に頭をこすり	そのせいに黄河のひびき白牡丹
上野 犀行 ウエノ サイゴウ	堤 宗春 ツツミ ムネハル	佐藤 享子 サトウ ミチコ

林誠司選__入選7句

363	270	250	170	154	149	33
引潮の深き砂紋や五月富士	阿夫利嶺の雲下りてくる袋掛	鮎ずしや果人会の著名人	だしぬけに夏鶯の声の又	実朝の生まれたる地に更衣	ほかあんとけふから五月象の鼻	どの穴と息をしてゐる蟹の穴
鈴木千枝子	吉田 幸敏 ヨシダ ユキトシ	阿部 恵美子 アベ エミコ	別所 信子 ベッショ シノブ	涼野 海音 スズノ ウミネ	三浦 郁 ミウラ イク	曽根新五郎 ソネ シンゴロウ

令和7年5月29日

第3回 俳人協会神奈川県支部俳句大会

藤田直子 選

藤田直子選 特選 3 句		
358	7	164
強運の白靴なりし色褪せし	嬰泣きて鍋噴き出と大夕立	田に水を張れば山裾遠ざかる
浜なつ子	山中洋子	池田中心山

藤田直子選 入選 7 句						
334	303	179	129	53	50	20
捕虫網兄のうしろを付けてゆく	新しき友を得し日や花水木	小さき絶望窓をあふるる緑	薫風や腕立て伏の背に子ども	鳥の巢に鳥の座れる聖五月	雨の日の赤き金魚と偏頭痛	抱擁のかたちに畳み更衣
畠中圭子	福田由美子	上春那美人	池田恵美子	平沢千恵子	國吉洋子	緑川美世子